

わが国における今後の20ヶ月齢以下の牛に 由来するリスクの定量的評価

1) 2003年4月以後の生まれの牛におけるBSE感染リスク

- 飼料禁止通達前の1995,96年生まれの牛は年間43頭くらい汚染した可能性
- 通達後のリスク低減効果(0.29~0.6)を考慮すると2001年生まれまでの年平均感染頭数は9~20頭くらいと予想される。
- このうち20ヶ月以下は12% = **1~2頭**と推定される。
- さらに、2001年の飼料等禁止措置は有効にリスク低減効果を持ったと考えられるので、2003年4月以降の生まれ(20ヶ月齢以下)の牛はさらに少ないと推定される。
- リスクは否定できない(しかし、検査しても陰性)。

2) 2003年4月生まれ以後の20ヶ月齢以下の年間1~2頭以下は検出限界以下 (今回、対策を強化すれば2005年以後生まれの感染率はさらに減少する)

- この牛1頭の持つ感染値は成牛の500~1000分の1以下として **8 ID₅₀ ~ 16 ID₅₀ 以下**
- 脳と回腸は独立して処理され、枝肉への汚染はない
- 汚染源となる脊髄は感染値の25%を占めるので **2 ID₅₀ ~ 4 ID₁ 以下**
- 取り残した脊髄が枝肉に交差汚染する量は1%以下
(100分の1以下の感染値として、**0.02 ID₅₀ ~ 0.04 ID₁ 以下**)